

図 書館通信



太陽に向かってまっすぐ背を伸ばす「向日葵」を見かけるようになりました。向日葵 の花言葉は、「光輝」、「あこがれ」。オリンピックイヤーでもある今年、向日葵が、光輝 く金メダルに見えてきます。果して、日本は、いくつのメダルを獲得できるでしょうか? オリンピック中継を見る楽しみは、競技そのものはもちろんのこと、応援の様子等から、世界各国の生活文化の一端を垣間見られること。興味を持ったことを、図書館の資料で調べることもオリンピックを楽しむ方法の1つになるのでは?

外国語の本

外国語に親しむきっかけに、英語、ドイツ語、フランス語の絵本を集めてみました。なかでも、「星の王子さま」は、英語、フランス語のCD付も追加。

夏休み、ゆっくり味わってみてはいかがでしょうか。





ポータブル DVD・ヘッドフォン

ポータブル DVD (閲覧席で視聴できます。) と、 ヘッドフォンを新しく追加しました。

DVD、CD、パソコンの視聴にご活用ください。





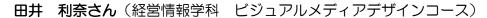
案内板できました!

静かな環境の中にある当館。 初めて来館される方が見つけや すいように、中庭に案内版を 設置しました。

ご来館、お待ちしております。



今号のイラスト





七夕を楽しむ

▶ 笹の葉さぁらさら~ ♪ 6月26日~7月6日、附属図書館で七夕飾りをしました。学生、教職員、たくさんの方が、それぞれの思いを込めて、短冊飾りに参加してくださいました。みなさんの願いが、天にとどきますように。







たくさんの短冊には、お願い事だけではなく、七夕にちなんだ句もありました・・・

夕凪に ガラスの金鱼 体みけり

散歩道 君の囁き カレー味

光跡を 水辺に映し ホタル舞う

とくたち返る 七夕の宵たまゆらに 複積まどふ 彦星の

川や 水や恋しい 天の川

清流の 一夜限りの 逢瀬かな

ご参加、ありがとうございました!

お薦めの1冊

子ども学科第 [部 吉田 直哉 先生



『戦前の少年犯罪』 管賀 江留郎 著菊池書館 請求記号 368.7/KA



世に、「ウヨク」と「サヨク」と呼ばれる人々がいる。定義はいろいろあるが、「サヨク」と呼ばれる人は、「未来」が好きなようだ。「今日より明日、明日より明後日!」、美しい世界が実現されることを夢見る人たちは、「サヨク」的な傾向が強い。それに対して、「ウヨク」と呼ばれる人たちは、「過去」に過剰にあこがれやすい。彼らにすれば、過去は、正しさ、気高さをたたえた理想郷である。

ところで、ウヨクサヨクには共通点がある。ともに、「現在が嫌い」だということだ。「今という時代」を、一緒になって批判し、攻撃する。ウヨクとサヨクの違いは、現在を批判する時に、よりどころにするのが、「過去」か「未来」か、という違いに過ぎない。

さて、今回は、少年犯罪の本である。「少年犯罪の激増」が、マスコミによって作られた 虚像であったことが明らかになってしまって久しい。その後、マスコミは、「少年犯罪の凶 悪化」説とか、「少年犯罪の質的変化」説とかに乗り換えたりしているが、つまり言いたい ことは、「昔と違って今はヒドイ」ということに過ぎない。つまり、「昔はよかった…」とい う年寄りの繰り言を真に受けているに過ぎない。

教育学者である私が本書を紹介する理由も、実はそこにある。「教育」には、とかく、ウヨクサヨクと、色がついている人たちが群れやすい。その時に、やたら、過去を賛美したくなる人というのが、一定数、必ずいるのだ。しかし、過去を賛美する人間ほど、過去に盲目だというのは、いったいどういう道理だろう。

本書『戦前の少年犯罪』は、そのような「過去幻想」に鉄槌を下す快著である。淡々と列挙されていく、戦前の戦慄すべき少年犯罪の新聞記事。今を生きる私たちの常識をはるかに逸脱する華麗な犯罪的想像力で、読む者に軽い猟奇趣味的な衝動すら催させる。ことに、「モンスターペアレンツこそは、日本の親の伝統である」などのフレーズは、一撃の痛快である。やや好みが分かれるかもしれない文体は、終始アイロニック。

著者の管賀江留郎(かんが・えるろう)というのは、当然ペンネームだが、プロフィールは 一切不明。著者もまた、猟奇的である。

編集後記

「七夕飾りなんて…」と言われるかしら、と心配していましたが、毎日増えていく短冊を見て、 附属図書館員達は、にんまり。これがきっかけで、初めて附属図書館を訪れたという学生さんも いて、さらに恵比寿顔。たくさんの方のご参加、本当にありがとうございました。

今号、お薦めの本をご紹介いただいた吉田直哉先生、イラストをよせてくださった 田井利奈さん(経営情報科 ビジュアルメディアデザインコース)、ご協力ありがとう ございました。